

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230012	
事務事業名	水族博物館一般管理事業	
予算書の事業名	2. 一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 水族博物館の施設の維持管理と運営。修繕は除く。		単位	実績		計画・目標			
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①県内外の入館者(市民を含む) ②水族博物館の施設	① 年間入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
	② 水族博物館施設	式		1	1	1	1	1
	③							
手段	<平成23年度の主な活動内容> 水族博物館の施設の維持管理と運営 委託業務の一部見直し リピーターを増やすために年間パスポートの発行 *平成24年度の変更点 変更なし	① 入場料その他の収入	千円	64,216	62,934	59,689	70,114	70,114
	②							
	③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①入館者が快適に、水族博物館で過ごすことができる。 ②施設の不具合を早期発見し、対応することができる。 ③入館者数が維持でき、リピーターが増加する。	① 本年度の入館者数/前年度の入館者数	%	87.02	94.18	94.82	120.83	100.00
	② 入場料その他の収入/歳出合計	%	40.73	45.14	26.89	40.00	40.00	
	③							
その結果	<施策の目指すすがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。 また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか 昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	97,844	94,290	99,627	98,000	98,000
		(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
		A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	97,844	94,290	99,627	98,000	98,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
①施設の老朽化 ②入館者の減少 ③近隣の水族館、動物園、博物館のリニューアルや施設の増設。 ④余暇の過ごし方の多様化。 ⑤委託業務内容の変化 ⑥諸経費の高騰 ⑦施設整備に伴う地方債の償還		②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,080	1,080	1,080	1,080	1,080
		B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	4,541	4,541	4,541	4,541	4,541
		事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	102,385	98,831	104,168	102,541	102,541
		(参考)人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
議会：入館者数の維持、高齢者割引の設定 隣接売店：外部施設の充実 市民：特になし		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		<input type="radio"/> 把握している	県内他市に比較できる水族館がない。					
		<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 入館者にとって快適な施設の状態を維持することで、入館者数の維持とリピーターの増加が期待できる。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後の程度見込めるか)	
あり	説明 施設の充実と接客の充実により成果向上が見込める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より顧客ニーズに合ったサービスの提供が可能になり、効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 多様化するお客様からの問合せや要望、老朽化した施設設備の不具合などに適切に対応し、サービスの維持向上を図るためにはこれ以上削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 多様化するお客様からの問合せや要望、老朽化した施設設備の不具合などに適切に対応し、サービスの維持向上を図るためにはこれ以上削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 平成23年度に入館者斡旋契約を廃止した。また、リピーターを増やすため年間パスポートの発行を実施した。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 入館料は、昭和56年の開館以来、消費税分を値上げしただけである。平成21年度より土日祝日の中学生以下の入館料を有料とし、市内在住の中学生以下は全開館日の入館料を無料にした。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="text" value="年度"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	計画的な施設の整備を進めることで、入館者数の維持やリピーターの増加が見込める。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3～5年間)	平成25年の魚津水族館開館100周年事業に伴う料金の見直しや委託契約の見直し、また施設整備と改修を行う。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
魚津水族館のあり方を、見直す時期に来ている。博物館としての活動と、観光施設としての位置づけが、魚津市として曖昧になっている。平成25年度の100周年以降における、魚津水族館の方向性を明確にすることが必要である。さらに、四代目の魚津水族館についても、検討を始める時期に来ている。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230012	
事務事業名	水族博物館施設管理事業	
予算書の事業名	2. 一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か、事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標				
水族博物館施設の維持・管理する事業				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	① 当初修繕予算	千円	3,300	4,250	4,300	4,750	4,750	
	②									
	③									
手段	<平成23年度の主な活動内容>	→	① 実施した修繕の総件数	件	48	55	45	45	45	
	水族博物館の施設・設備の修繕の実施									
	*平成24年度の変更点 変更なし		② 修繕に要した費用	千円	5,293	5,779	4,300	4,750	4,750	
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	① 修繕件数の前年対比	%	100.00	114.58	81.82	100.00	100.00	
	①施設・設備が適切に管理ができる。		② 修繕に要した費用/前年度の修繕に要した費用	%	67.84	109.18	74.41	110.47	100.00	
			③							
その結果	<施策の目指すすがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。 また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	5,293	6,071	4,300	4,750	4,750
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	5,293	6,071	4,300	4,750	4,750
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
開館以来29年が経過し、施設・設備の老朽化に伴い、修繕費が増大している。また、当初計画をしていない突発的な修繕が多くなってきており、職員等で小修繕を行っているものの、当初予定していた修繕を先送りしたり、補正予算を計上せざるえない。今後も修繕費の増加が見込まれるので、抜本的な修繕計画が必要である。				②事務事業の年間所要時間	(時間)	960	960	960	960	960
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	4,037	4,037	4,037	4,037	4,037
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	9,330	10,108	8,337	8,787	8,787
				(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市民：安全対策の向上要望。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input type="radio"/> 把握している	県内他市に比較できる水族館がない。					
				<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 施設の適切な維持・管理は、当館での生涯学習の推進に直結するため必要性が高い。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 修繕計画の策定と適切な実施により、施設の基本的機能を維持できる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より効率的な維持管理を行えるなど効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 施設の老朽化に伴い、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 人件費を削減するとその分、日頃のメンテナンスに関する時間が減少し、事業費が増大する。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
あり	説明 業務内容の見直しで、適正化できる可能性はある。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 修繕工事費の増加が入館料に反映されていないので、今後も受益者負担は少ない。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成25年の閉館100周年に向けて、施設整備を進めているため、修繕については先送りになっている箇所もあるが、計画策定した修繕内容を遅滞なく実施する。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3～5年間)	計画的な修繕・改修を行うことで、事故やトラブルが減る。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
老朽化や法令の変更などに伴う修繕・改修などは、随時、生じてくるし、増加が予想される。また、100周年に向かっては、改修・リニューアルを優先しており、大きな修繕工事が先送りされているので、そのつど、優先順位をつけながら、効率的に事業を推進する。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	33120005	
事務事業名	水族博物館観客誘致事業	
予算書の事業名	6.観客誘致事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	当面継続
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	331002
政策の柱	基1 にぎわい、活力あるまちづくり	
政策名	3 交流と連携によるにぎわい創出	
施策名	1. 観光の振興	
区分	なし	
基本事業名	情報の活用と受け入れ態勢の整備	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か、事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標				
県内外の観光業者へのPR及び入館者に対するサービス向上による入館者の増加を図ることを目的としている。ただし、広告宣伝事務は除く。				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	① 入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000	
	② 観光業者									
	③ 市内外の宿泊施設									
手段	<平成23年度の主な活動内容>	→	① 団体入館者数	人	33,134	28,309	28,140	34,000	34,000	
	①外部イベントでのPR活動 ②パンフレットの送付 ③イベントの実施 ④お正月飾りつけとプレゼント実施 ⑤にいかわ観光圏内宿泊施設利用者の割引 ⑥フレンドショップ制度の実施 ⑦オリジナル商品の開発・販売		② 優待券利用者数	人	14,743	13,785	700	700	700	
	*平成24年度の変更点 23年度末でにいかわ観光圏内宿泊施設利用者以外の優待券を廃止した。		③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	① 団体入館者数/入館者数	%	24.66	22.37	23.45	23.45	23.45	
	①観光業者が水族館をPRし、お客さんが来館する。		② 優待券利用者数/入館者数	%	10.97	10.89	0.58	0.58	0.58	
	②入館者が満足する。		③							
その結果	<施策の目指すすがた>	→	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
	観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人を訪れています。									
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか)				財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
昭和56年の水族博物館の開館に伴い、観光業者からの利用客の誘致のために始まった。					(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0
					(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	1,957	581	1,738	1,002	1,002
					(4)一般財源 (千円)	0	0	0	0	0
					A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	1,957	581	1,738	1,002	1,002
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	2	2	2	
①近隣の水族館・動物園・博物館のリニューアルや施設の増加。					②事務事業の年間所要時間 (時間)	440	440	440	440	
②入館者の減少。					B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)	1,850	1,850	1,850	1,850	
③交通網の発達により、入館者の移動距離の拡大。					事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	3,807	2,431	3,588	2,852	
④来館者ニーズの多様化。					(参考) 人件費単価 (円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	
⑤少子化。										
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)				◆県内他市の実施状況 (把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
議会：施設の有効利用と入館者数の維持を図る。 隣接の売店：客を集めて欲しい。 市民：特になし				<input type="radio"/> 把握している <input checked="" type="radio"/> 把握していない		県内他市に比較できる水族館がない。				

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 冬季間を除き、無休で閉館している施設であり、今後の魚津市の交流人口を維持・増加させていくためにも、当館のみならず魚津市全体の情報発信源として活用していくことが望ましい。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
あり	説明 観光業者への訪問は廃止したので、今後は個人入館者や外国人観光客をターゲットにする必要がある。費用対効果の評価により、福利厚生組織との連携を廃止したので、今後は館自体で来館への動機付けを強化する必要がある。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 ホームページの運用の連携で、成果の向上の余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 市内博物館や商工観光課、商工会議所、漁協などと情報の受発信や合同イベントの実施など、今以上に連携することで、効果が期待できる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 パンフレットの見直しやオリジナル商品の制作・販売で一時的に事業費は増大するが、長期的には収入増を見込めるので、事業費は削減される。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 今後、より関連施設や協力者と密接に連携する必要があるため、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 福利厚生組織との連携を廃止したので、適正化の余地はない。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 関連施設や業者との契約内容の見直しで、適正化の余地がある。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 有効性 <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input type="radio"/> 効率性 <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input checked="" type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	年度 _____

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成25年の開館100周年に向けて、観客誘致計画の見直しの実施 市内博物館との合同企画の実施 コストの方向性 削減
	中・長期的 (3～5年間)	平成25年の開館100周年に向け、継続的かつ計画的な見直しの実施 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
100周年に向けての、観客誘致は、計画を立てて対応する必要がある。また、通常でも、早めに事業計画を立てることで、市内外の情報発信メディアに活用してもらうことに取り組みだした。ホームページやスマートフォンに対する対応が、より重要性を増している。来館意欲を掻き立てるような内容の検と、発信方法については、専門家の協力が必要である。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	33120005	
事務事業名	水族博物館広告宣伝事務	
予算書の事業名	6. 観客誘致事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	当面継続
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	331002
政策の柱	基1 にぎわい、活力あるまちづくり	
政策名	3 交流と連携によるにぎわい創出	
施策名	1. 観光の振興	
区分	なし	
基本事業名	情報の活用と受け入れ態勢の整備	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 魚津水族館の魅力や活動をPRし、入館者の増加を図る事業。		単位	実績		計画・目標				
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①市民 ②県内外の観光客 ③保育園・幼稚園・学校の遠足担当者	対象指標	① 入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
			② 団体入館者数	人	33,134	28,309	28,140	34,000	34,000
			③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> ①テレビ、新聞、雑誌等への広告掲載 ②JR魚津駅、地鉄富山駅、宇奈月駅の看板 ③情報誌への情報提供 ④報道機関への情報提供 *平成24年度の変更点 変更なし	活動指標	① テレビCM、新聞、雑誌の広告件数	件	35	37	36	36	36
			② 広報による新聞掲載(確認分)	件	168	170	175	180	180
			③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①市民の関心が魚津水族館に向き、市民の来館が増える。 ②水族館の魅力が伝わることで、県内外の入館者が増加する。 ③遠足の利用が増え、入館者が増加する。	成果指標	① 入館者の前年対比	%	87.02	94.18	94.82	120.83	100.00
			② 団体入館者の前年対比	%	97.89	85.44	99.40	120.82	100.00
			③						
その結果	<施策の目指すすがた> 観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人を訪れています。		↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和56年の水族博物館の開館に伴い、施設の紹介と普及、PRのために始まった。		財源内訳	①国・県支出金 (千円)		0	0	0	0	0
			②地方債 (千円)		0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等) (千円)		2,604	2,519	2,519	2,400	2,400
			④一般財源 (千円)		0	0	0	0	0
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)		2,604	2,519	2,519	2,400	2,400
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) ①開館以来30年が経過し、施設が老朽化。 ②近隣の水族館・動物園・博物館のリニューアルや施設の増加。 ③余暇の過ごし方の多様化。 ④長期不況による観光客の減少。 ⑤交通網の発達により、入館者の移動距離の拡大。⑥少子化による遠足客数の減少。 ⑦広告予算の削減。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)		2	2	2	2	2
			②事務事業の年間所要時間 (時間)		440	440	440	440	440
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)		1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		4,454	4,369	4,369	4,250	4,250
			(参考) 人件費単価 (円@時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：PRを充分に行い入館者数の維持を図る。 隣接の売店：水族館がマスコミに載るイベントの実施と新施設の増築を行って欲しい。 市民：特になし		◆県内他市の実施状況	<input checked="" type="radio"/> 把握している	→	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 滑川市は、ホタルイカのキャラクターを公募し、ホタルイカミュージアムへの観光客の誘致を計画している。				
			<input type="radio"/> 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 マスコミへの広告やイベント情報、ニュース情報の提供による新聞、テレビでの掲載は、魚津水族館に関心が向き、魚津市への観光客が増加する。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 アンケート調査などにより顧客ニーズや観光客の動向などを把握し、広告宣伝につなげることにより、成果の向上が見込まれる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 広告媒体の有効性や費用対効果を検証することで、事業費の削減の余地がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 広告媒体の有効性や費用対効果を検証することで、事業費の削減の余地がある。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 情報発信の回数が事業の効果を高めるので、削減の余地がない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
あり	説明 各広告媒体の有効性や費用対効果を検証することで、適正化の余地がある。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 広報の方法を検討することで、より受益者負担の水準を下げる余地がある。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="text" value="年度"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 削減
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上
イベント等にあわせてマスコミへの情報発信を頻繁に行うとともに、無料掲載雑誌・パンフレット等への掲載やテレビ番組への協力など新たな広告宣伝活動の充実させる。		
他の観光関連施設 (博物館等含む) と連携をとりながら、効果的な広告宣伝の実施を図る。魚津市のみならず、新川地区全体の状況を視野に入れた共同広告活動の実施。		

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
以前のような大量の広告宣伝費は使っておらず、地元マスコミとの協調のために行っている感があるが、普段の取材を円滑にするためにも必要である。提供する写真や記事が代わり映えせず、マンネリ化している。100周年に向けた、広告宣伝の方法を顧客誘致事業やホームページ事業と併せて、検討する必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230011	
事務事業名	水族博物館ホームページ運用事務	
予算書の事業名	3.博物館事業	
事業期間	開始年度	平成10年
	終了年度	当面継続
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) インターネット・ホームページを利用した情報発信による入館者増		単位	実績		計画・目標				
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①市民 ②県内外の入館者 ③魚津水族館に興味関心がある未入館者	→	① ホームページアクセス数	回	126,816	79,962	85,000	87,000	90,000
		→	② 年間入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
		→	③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> ホームページを使った、イベント案内・利用案内。ホームページに寄せられた質問に対する回答。携帯電話用のホームページの配信。法人サポーターのページの開設。飼育係からの話題提供。 *平成24年度の変更点 変更なし	→	① ホームページ更新回数	回	190	221	210	220	220
		→	②						
		→	③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①対象者の魚津水族館に関する興味を増加させ、来館を促す。 ②魚津水族館に興味があるが、来館に至らない対象者を来館へつなげる。	→	① アクセス数の前年対比	%	103.24	63.05	106.30	102.35	103.45
		→	② 入館者の前年対比	%	87.02	94.18	94.82	35.00	100.00
		→	③						
その結果	<施策の目指すすがた> 観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人々が訪れています。		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成10年。多くの水族館や動物園などの施設でホームページが開設され、旅行雑誌と並んでホームページから情報を得ようとする人が増えたから。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)		0	0	0	0	0
			(2)地方債 (千円)		0	0	0	0	
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)		294	282	282	282	282
			(4)一般財源 (千円)		0	0	0	0	
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)		294	282	282	282	282
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 平成16年にホームページをリニューアルし、ライブカメラを設置した。(現在は故障中) 家庭への高速インターネットの急速な普及により、益々情報発信源としてのホームページの重要性が増している。また、携帯端末サイトで情報を得ている人も増加している。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)		2	2	2	2	2
			②事務事業の年間所要時間 (時間)		220	220	220	220	220
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)		925	925	925	925	925
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		1,219	1,207	1,207	1,207	1,207
			(参考) 人件費単価 (円@時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市民：内容の更新を頻繁に行って欲しい。		◆県内他市の実施状況	● 把握している	→	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 比較できる同様の施設がない。 しかし、県内の動植物園もホームページは開設している。				
			○ 把握していない						

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 ホームページは、タイムリーな情報を全国の方に提供できるので、魚津市への観光客誘致に対する貢献度は高い。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 当館の展示や活動などに興味を持ってもらいやすくなるようなページレイアウト、コンテンツの精査・充実、動画配信など、成果の向上の余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある事務事業として、広告宣伝事業があげられる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 使用機器の定期的な見直しによる余地はあるものの、新たな内容構成の作成や構成の見直しは、外注をすることになり、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 発信情報の更新やコンテンツの充実が、サイト訪問者の増加につながるため、業務時間は増える。(ただし、一定以上のHTML運用スキルを職員に対し義務化するのであれば改善の余地はある)

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
あり	説明 一般的には、ホームページの運用自体は情報の発信手段であり、特定の受益者はいない。ただし、関連事業の法人サポーター制度は、導入にあたり受益者負担を求めており、さらなるサポーターの増に向けて協賛金額設定の見直しやサポートに対するフォローなどの導入を検討していく余地はある。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 法人サポーター制度については参加法人の増加を図ることにより、水族館としての受益者負担額を増加することができる。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 年度 <input type="text"/>	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成21年度で行った、ホームページの充実の結果を観察する。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	平成25年の開館100周年に向けて、ホームページ内での展示魚類の解説の増加などを行い、利便性の向上を図る。 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
ホームページは、携帯電話のスマートフォン化が進む中で、より重要性を増している。来館意欲を掻き立てるような内容の検討と、発信方法については、100周年記念事業の中で事業展開している。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230013	
事務事業名	水族博物館施設整備事業	
予算書の事業名	7.施設整備事業	
事業期間	開始年度	平成20年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	倉元朋就	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 海洋水槽への水中会話設備の導入 魚津水族館開館100周年に向けた事業計画の作成 事業計画に基づく当館施設の修繕やリニューアルの実施		単位	実績		計画・目標				
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①入館者 ②魚津水族館館内設備	→	① 年間入館者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
			② 対象設備 (水族館設備)	式	1	1	1	1	1
			③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> ①危険物貯蔵タンク更新工事 ②空調用ボイラー更新工事 ③屋内高圧電気受電盤外改修工事 ④中央監視装置更新工事外 事業計画に基づく当館施設の修繕	→	① 事業計画に基づく各種工事	式	1	1	1	1	1
	*平成24年度の変更点 魚津水族館開館100周年事業計画に基づくリニューアル工事の実施		②						
			③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①海洋水槽でダイバーが来館者に水槽や展示魚類の説明をするイベントを行うことで来館者の満足度が上がる。 ②開館から100周年となる平成25年9月に向けて、魚津水族館で実施する事業を策定し、計画的に改修を行うことで、よりよい施設の運営・管理をめざす。 ③効果的な改修を行い、今後10年にわたっての安定運営を図る。	→	① 入館者の前年対比	%	87.02	94.18	94.82	120.83	100.00
			②						
			③						
その結果	<施策の目指すすがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。 また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。		↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 入館者の満足度については、今後、アンケート調査を行う。						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成12年度頃から、海洋水槽の老朽化が目立ちはじめたので、平成20年度にこの事業を開始した。 また、現水族館設備は開館から30年が経過し、全体的に老朽化が激しくなっている。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	22,056	0	0	
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0		
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	30,655	23,084	93,624	22,884	10,700	
			(4)一般財源 (千円)	0	0	0	0		
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	30,655	23,084	115,680	22,884	10,700	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	3	4	4	4	4	
①近隣の水族館、動物園、博物館のリニューアルや施設の増設。 ②来館者のニーズの多様化 ③現水族館設備は、改修を行わないと早期に大きな故障を生じる可能性が極めて高い。			②事務事業の年間所要時間 (時間)	1,200	1,600	1,600	1,600	1,600	
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)	5,046	6,728	6,728	6,728	6,728	
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	35,701	29,812	122,408	29,612	17,428	
			(参考) 人件費単価 (円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：リニューアルに際しての県費補助の獲得。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
		● 把握している	富山県内に同様施設を持つ施設がない。						
		○ 把握していない							

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 生涯学習施設として、施設の抱える問題点や改善策を実施し、良好な状態に維持管理する必要度は高い。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 今後、導入した設備をうまく活用することでの成果向上の余地はある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 修繕に関しては施設管理事業と連携することで、より効率的に行える可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 平成 25 年度までは、継続して事業費が必要。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 工事の発注関係の業務、事業計画策定のための事務・打合せが主になるため削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 通常イベントを行うための設備の導入や将来的な水族館管理運営の適正化を図る事業であり、特定の受益者はいない。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 来館者を特定受益者とはみなしにくいですが、今後は、設備の新設または改修の機会を捉えて入館料の引き上げを検討すべきである。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事務事業と統合又は連携	
<input checked="" type="radio"/> 目的見直し <input type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どのような手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
24年度は、100周年に向けた改修・リニューアルを重点に行っているため、先送りされている大型の修繕を計画的に進める必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	
------------------	--

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230015	
事務事業名	調査研究事業	
予算書の事業名	5.調査研究事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	当面継続
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か、事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標			
① 他館からの情報収集 ②水生生物および地元生物の調査・研究				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	① 飼育員数	人	7	8	8	8	8
	② 展示情報 ③ 展示生物及び地元の河川・海の生物		② 計画調査数	件	3	3	3	3	3
			③						
手段	<平成23年度の主な活動内容> 市内河川・沿岸及び県内の生物調査を実施	→	① 調査実施回数	人	3	5	5	5	5
	*平成24年度の変更点		②						
	①魚津生物多様性地域戦略の調査研究 ②魚津・富山の生物調査 ③本事業は24年度より博物館事業に移管		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	① 調査実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	① 他館職員との情報交換により職員の飼育技術が向上する ② 地元生物の現状を把握できる		②						
			③						
その他の結果	<施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備の他にアウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われている。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 調査研究は平成2年度から地元生物を把握する目的に開始した。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	182	161	0	0
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額((1)~(4)の合計)	(千円)	182	161	0	0
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 社会一般に環境意識が高まり、地元野生生物や環境に関する興味や関心が増している。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	2	2	2
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	600	600	600	600
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	2,523	2,523	2,523	2,523
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	2,705	2,684	2,523	2,523
				(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 地元の河川の生物調査や、希少生物の調査を議会に要望されている。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
				<input type="radio"/> 把握している	比較する同等の施設が無い				
				<input checked="" type="radio"/> 把握していない					

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 魚津水族館のメインテーマが「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」「富山湾を科学する」であり、テーマに沿った展示や普及活動を行うために重要な事業である。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
あり	説明 24年度より博物館事業との連携による見直し

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 生物環境を把握でき、その環境に応じた展示ができる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連帯することで、効果が高まる可能性のある他の事業がない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 職員の技術向上及び展示充実の必要があり、削減できない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 水族館は交代勤務をしており、全ての職員が常時いるわけではない。採集の日も前月の休みの予定表に組み込んでいる。また、ダイバー業務も飼育職員で行っているため、削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 展示や地域生物の調査なので特定受益者は生じない。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
平均	説明 他の市町村に同じ施設がないため比較できない。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 年度 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input checked="" type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	なし コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	24年度より博物館事業との連携により見直し 成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
調査研究は、その目的を十分理解し、計画的に行う必要がある。また、水族館での展示や普及活動に活用するとともに、広く調査研究に基づく情報を発信することは重要である。24年度は、生物多様性地域戦略の策定のための協力が增大することから、優先順位を考慮して、博物館事業の中で行う。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230014	
事務事業名	企画展事業	
予算書の事業名	4.企画展事業	
事業期間	開始年度 昭和56年	終了年度 当面継続
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	
業務分類	6. ソフト事業	

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か。事業の内容、業務の手順など) 毎年テーマを選び、特別展会場などで展示を行うもの。事業の実施により入館者の増加と水生生物の知識が普及できる。		単位	実績		計画・目標				
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ① 館内入館者	→ 対象指標	① 年間入場者数	人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000
	手段	→ 活動指標	②						
			③						
<平成23年度の主な活動内容> 夏の特別展、春のホテルイカ展示、イベント時の特別展示、写生大会の開催			① 特別展開催期間の入場者数	人	113,737	107,122	102,000	120,000	120,000
意図	→ 成果指標	② 特別展の実施回数	回	8	8	8	8	8	
		③							
		(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 特別展の実施により水族館に関する興味が高まり、入館者が増加する。また、入館者は水生生物に関する知識と興味が増す。	① 特別展開催期間の入場者数/年間入場者数	%	84.64	84.63	85.00	82.75	82.75
その結果	<施策の目指すすがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備の他にアウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われている。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか) 昭和59年から実施。入館者の減少に伴い、夏の特別展を開催した。その後入館者の多い春のホテルイカの時期にも開催した。		財源内訳	①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
			②地方債	(千円)	0	0	0	0	
			③その他(使用料・手数料等)	(千円)	2,256	1,860	2,208	2,208	2,208
			④一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
			A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	2,256	1,860	2,208	2,208	2,208
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 通常の飼育管理の増大があるため人員が不足である。また、企画展に関わる費用は減少している。			①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	2	2	3	3
			②事務事業の年間所要時間	(時間)	900	1,000	1,800	2,700	2,700
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	3,785	4,205	7,569	11,354	11,354
			事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	6,041	6,065	9,777	13,562	13,562
			(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市内博物館との連携。魚津・富山に係る情報発信		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
		● 把握している	富山県内の動物園・植物園が独自の企画展を行っている。						
		○ 把握していない							

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 企画展は、入館者に対して生涯学習のきっかけを与える意味が大きく、貢献度は大きい。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切である。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 社会のニーズを把握することで、成果の向上が望める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 埋没林博物館、歴史民族博物館や水産業・商工業・教育機関と連携した企画をすることで、今より実施効果が高まる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 社会のニーズは多様化・高度化しており、魅力ある企画展を求められている。また、水族館はさまざまな企画展が開催されていることが認知されており、情報の発信源並びに集客の柱となる企画展の削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 少ない予算と人員で行っているため、削減はできない。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 企画展は、開催期間中にしか見ることができないのにもかかわらず、入館料は一緒である。持ち込み企画展やイベント時に特別料金の設定が可能。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 少ない経費で企画・実施しているため、手作りしている部分が増えている。職員も交代で休んでおり、担当者も1日企画展に時間を割かれるわけではないので、コストの低下には受益者負担を求めることも必要。

★ 評価結果の総括と今後の方向性			
(1) 評価結果の総括			
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり		
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり		
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり		
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり		
(2) 今後の事務事業の方向性			
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> </table>		年度	
年度			
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止			
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善			

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	「ホテルイカ展」「教科書の世界へ飛び込もう展」「ハロウィーン展」を開催予定 コストの方向性
	中・長期的 (3～5年間)	平成25年度は「希少生物展」を開催予定。他はニュースやニーズ性を見ながら検討。 成果の方向性
		維持
		向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
従来の特別展で、恒例になっている「ホテルイカ展」は、マンネリ化を避けるために、工夫が必要で、そのための調査・研究を行うべきである。毎年、行っている他の展示は、テーマの選択を早めに行い、内容を充実すべきである。一方で、効果の薄い企画展などは見直しを行うべきである。他の、普及活動との関連を考慮することも必要である。今後の予定を早めに立てて、準備のための時間や、予算を確保する必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	

平成 24 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 23 年度実績と平成 24 年度計画)

【1枚目】

事業コード	61230011	
事務事業名	水族博物館事業	
予算書の事業名	3.博物館事業	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
業務分類	6. ソフト事業	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	007010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か、事業の内容、業務の手順など)				実績		計画・目標			
① 水族館の常設展示生物の飼育・管理 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③ その他普及活動に関すること				単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	① 常設展示生物種数	種	369	330	330	330	330
	② 入館者		人	134,377	126,562	120,000	145,000	145,000	
	③ 市民向けイベント数		件	0	4	10	10	10	
手段	<平成23年度の主な活動内容>	→	① 展示生物数	点	11,230	10,217	11,000	11,000	11,000
	① 水族館の常設展示生物数 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③市民向けイベント、うおづ水辺の調査隊の実施		② 展示生物購入金額	千円	2,750	3,951	3,554	3,554	3,554
	*平成24年度の変更点 23年度実施のうおづ水辺の調査隊は河川のみであったが、24年度は沿岸まで広げて実施		③ 普及活動参加人数	人	7,246	6,937	5,000	8,000	8,000
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	① 本年度の展示生物数/全年度の展示生物数	%	110.80	90.97	107.66	100.00	100.00
	① 展示生物をよい状態で飼育できる。 ② 入館者が生物に興味を持ち、生涯学習の推進になる。		② 展示生物購入金額/博物館事業費	%	36.18	42.27	40.86	40.86	40.86
			③						
その結果	<施策の目指すすがた> より魅力ある水族博物館を目指して、企画・展示や普及活動の充実と施設設備の整備の他にアウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われている。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 大正2年の9月21日に、一府八県連合共進会の第2会場として初代魚津水族館が開館。昭和29年に富山産業博覧会の魚津会場として2代目が建設され、昭和56年に現在の三代目が開館した。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0
				(千円)	0	0	0	0	
				(千円)	7,600	7,835	8,697	8,697	8,697
				(千円)	0	0	0	0	
				(千円)	7,600	7,835	8,697	8,697	8,697
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	2	2	2
① 施設老朽化 ② 近隣の水族館、博物館の増設やリニューアル ③ 少子化				②事務事業の年間所要時間	(時間)	800	1,600	1,600	1,600
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	3,364	6,728	6,728	6,728
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	10,964	14,563	15,425	15,425
				(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：学芸員の調査・研究に基づいた企画展示・普及活動および近隣施設との連携				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
				● 把握している	比較できる施設が他にない				
				○ 把握していない					

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 展示などの事業を通して魚津・富山の水生生物に興味がわき、学習意欲が促進され、生涯学習が推進できる。
2. 市の関与の妥当性 (なぜ市が行わなければならないのか、民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (【対象】と【意図】は適切か、限定又は追加・拡充すべきでないか、また、その理由)	
なし	適切

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の目標は達成されたか、成果の向上が今後どの程度見込めるか)	
あり	説明 継続的な職員の業務に伴い飼育技術の向上が図られ、職員成果は上がる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 市内外の博物館や教育機関、水産業関係などと連携をとることで展示・集客効果が高まる可能性はある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (仕様や住民等の協力など手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 魅力的な博物館事業を行うためには、調査研究・研修・普及活動に関連性が高く、削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 通常の魅力的な事業展開のため、事業は増大している。また100周年関係の改修業務もあり削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)	
なし	説明 当館は市で運営しているので、他の市町村と区別して、市民だけを対象としたイベントもやっている。
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)	
低い	説明 市民が参加できる機会は今後、より一層必要となる。

★ 評価結果の総括と今後の方向性	
(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり <input type="radio"/> 有効性 <input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり <input type="radio"/> 効率性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり <input type="radio"/> 公平性 <input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	年度 _____

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度) 職員が調査研究や研修を行い、飼育技術や知識の情報収集は、より良い展示につながり入館者の興味を持つ展示・解説ができる。また市民向けの市民参加イベントの検討を行う。	コストの方向性
	中・長期的 (3～5年間) 魚津水族館従来のテーマ「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」「富山湾を科学する」と100周年の「もっと富山のこだわりたい」「世界の環境を伝えたい」「水族館の裏側をみせたい」3本の柱を加え、展示向上を計る。さらに市民参加システムを導入したい。	成果の方向性 向上

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
魚津水族博物館の中心的な事業で、テーマに沿った展示や、特徴的な「ホタルイカ・発光生物」「深海生物」「希少生物」など、個別のテーマや、水槽展示のテーマを設定し、観客に何を伝えたいのか、積極的に発信性のある展示を行う必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議評価)	
